

課題：第一次世界大戦前後の日本における政治・経済はどんな様子だったのか？

8. 大正デモクラシー

(1) 第一次護憲運動(1912 年)

藩閥の桂太郎内閣  「憲政擁護・閥族打破」犬養毅・尾崎行雄＋国民の支持
対立

結果：桂太郎内閣が退陣

(2) 大戦景気…軽工業(紡績・製糸)中心

① 第一次世界大戦で欧米への輸出が増える

なぜ？  -----

② 物価の上昇

好景気→物価の上昇

工場労働者→農業人口…米が不足＋シベリア出兵をみこした米屋の買い占め



米価の上昇



米騒動(1918 年 富山から全国へ)

(3) 政党内閣の成立

…陸・海軍、外務の 3 大臣以外の全て、衆議院第一党(立憲政友会)の党员で組織

⇒本格的な**政党内閣**の誕生(**原敬**内閣)

①本格的な政党内閣

②原敬は平民出身

③選挙法を改正(納税額 10 円→3 円)

(4) 民主主義の広がり

① 吉野作造の民本主義

② 美濃部達吉の天皇機関説

【取り組み方】

(2)①「なぜ第一次世界大戦によって日本から欧米への輸出が増えたのか？」

まとめ：【政治】ヒント 第一次護憲運動の後、どのような内閣が誕生したのか？

【経済】ヒント 大戦景気は日本の経済にどのような影響を与えたのか？